

## 「Business Analysis Workshop 参加報告書」

京都大学経済学部 4年 Y.K.

- ① 今回のワークショップに参加する前は、自分が将来英語を用いて国際的に活躍するビジョンが描けていなかったため、語学習得や異文化交流にあまり前向きではなかった。しかし今回このプログラムに参加して第一に感じたことが、将来的な語学力の必要性である。簡単な意思疎通はできるものの、互いのことを十分に理解すること・ワークショップでの質疑応答を満足にこなすことは十分にできなかつたと実感した。今後社会人として海外で働くことになった際、このままの自分では十分な成果をあげることができないだろうと実感したことで、語学の学習意欲は非常に増加した。こうした気づきに加えて、海外の友人ができたことも自分の今後の人生を考えると非常に有意義な経験になったのではないかと思う。
- ② ワークショップでは 25 分程度英語で自分たちの研究を発表した後、質疑応答があった。自分としては発表よりも英語でのディスカッションが今回のプログラムにおける重要な部分であったと思われる。この経験が、①で述べたような語学への意識の向上をもたらした大部分を占めていると考えている。一方ワークショップ以外の時間は、現地の学生に台湾を案内してもらった。私は海外に渡航した経験がほとんどなかったため、触れる文化全てが新鮮なものだった。食事の仕方やゲストへのもてなし方など、日本と異なる部分が多くあったため非常に興味深かった。今後海外の方を日本でもてなし、観光案内に連れていくこともあると思うので、いい勉強になった。
- ③ プログラム内容は、②で述べたような発表と質疑応答を国立台湾大学・京都大学・早稲田大学の 3 校合わせて 6 チームで行った。教授方は質問せず、基本的に学生が英語で発表に対して質問を行い、自分たちの発表の際は英語で質問に答える、という形でワークショップは行われた。
- ④ 現在自分は学部 4 年生なので、就職先は決まっている。ただ、就職先が海外に事業を拡大しつつある企業なので、今回のプログラムを機会に将来会社の海外支部で働くことを志願してみたいと思うようになった。というのも、英語学習の意欲が向上したこともあり、英語を用いて海外でビジネスをしたほうが自身のスキルアップという面でも、会社の成長という面でも有意義だと考えるようになったからである。つまり今回のプログラムの成果としては、私の閉鎖的な性格がいくらか緩和され、海外に対して前向きに捉えられるようになったことが最も大きなものだったと考えている。